

## 卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	1911
プログラム名称	多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	深瀬 浩一	プログラムコーディネーター	中野 貴志

### (評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</li> <li><input type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</li> <li><input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</li> <li><input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</li> </ul> <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、双翼型大学院教育システム (DWAA) の基本理念に基づき、分野融合的・横断的なプログラムが全学展開されており、本プログラムが大阪大学の大学院教育改革を先導していることは評価できる。また、人文社会系やグローバルリーダーシップなど 59 の副専攻プログラムや高度副プログラムが用意されており、本プログラム生が自身の専門とは異なる学問を体系的に学べる独自の教育プログラムが開講されていることも評価できる。しかし、現状では学生が積極的に活用する雰囲気が高く醸成されていない懸念が伺え、その対策を講じることが望まれる。また、「知と知の融合」を標榜するプログラムとして、情報系学生の参加が強く望まれる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、必修の国内外研修はコロナ禍の影響が心配されたが、尽力の成果として他の KPI も含めてほぼ達成されていることは評価できる。しかし、研究室ローテーションによる学生間の異分野交流を活性化する具体的な取り組みが望まれる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、学外のセカンドメンターは、学生の視野を広げ、キャリアパスの多様化を図る上で有効に機能しており評価できる。加えて、学内のファーストメンターをさらに追加することによるメンタリング体制の強化が期待できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、令和 4 年度も含め毎年 1.3～1.6 倍の競争率で、書面審査と面接審査にて選抜して充足率を満たしていることは評価できる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、プログラム教務委員会にて審査体制を設け、評価方法を明解にし、修了審査および進級時の QE が実施されるシステムが</p>
--

構築されていることは評価できる。

事業の継続・発展については、本プログラムは大学院教育改革を先導するものとして位置付けられており、補助期間終了後もその取組の成果を大学院教育改革の推進に活かすため、自己財源にて継続されることが期待される。